

建設経済委員会先進地視察報告

建設経済委員会 先進地視察報告を行います。

建設経済委員会では、去る 1 月 27 日に安来市、続いて 28 日には津和野町の行政視察を行いました。

安来市では、「移住定住対策の観点からの高校魅力化事業について」説明を受けました。

安来市では、多様な主体が参画し、高校と地域が互いに利益を享受する協同体制として、高校魅力化コンソーシアムが組織され、2名の高校魅力化推進員が配置されています。この、高校魅力化推進員が機能することで、地域とともにある高校の実現を目指しています。

その中で、小・中学生から高校生に向けては切れ目なく地域とかわり続ける事業を実施し、高校生から就職・進学に向けては地域での将来や魅力を知ったうえで進路選択をしてもらう体制づくりを、教育長をトップとして行っていることは、キャリア教育の連続性を担保していると感じました。

また、安来市も高校寮の不足により、県外からの高校生の受け

入りに苦慮していますが、空き家の借入に対する施設改修費や下宿費、食費等の支援を行うことで、県外からの高校生を確保するとともに、地域資源を活用した学習や地域の担い手育成に努め、市内高校生のつなぎ止めにも取り組んでいます。

そのほか、大学生を対象にした、長期実践型キャリア教育を実施し、大学と行政が連携して地域課題に取り組むなど人材育成にも努めています。

次に、津和野町では、「公設民営スーパーについて」、「農林業に関する定住対策について」、「一般的な定住対策について」及び「高校魅力化事業に関する定住対策について」視察を行いました。

まず、「公設民営スーパーについて」は、旧日原町中心地にあったスーパーが店舗の老朽化・後継者不在等により閉店することとなり、半径10km圏内が無店舗状態になることから、連合自治会が店舗存続を求める請願を町議会へ提出し、町議会が全員賛成で請願を採択したことから、町として店舗存続への取り組みを始めたものです。

建物の建設は、町がデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、

合併特例債を起債して行い、事業者と10年間の指定管理契約を、指定管理料なしで行っています。事業者は年間100万円未満の赤字になるものの、もともとの町との取引も含めた企業全体の売り上げでカバーできているとのことでした。

この事業のポイントは、閉店に対して同じように事業を残そうとするのではなく、利便性など新たな付加価値をつけて委託している点です。買物不便地域の解消は重要ですが、事業者が撤退した後と同じ事業を導入することは経済合理性に欠けるもので、設置場所や移動販売の運営補助など利便性を高める付加価値を付けたことで成功している事例だと思いました。

次に、「農林業に関する定住対策について」です。町内の認定農業者の経営状況を参考に作成された農業経営基盤強化促進構想では、新規就農者にはハードルが高いことから、半農半Xでの就農モデルを作成し、新規就農希望者に紹介するものです。相談、体験、研修、就農と段階を踏んで進めることができ、時々に応じて就農支援や生活支援が受けられる仕組みが作られており、町や農業に興味がある方に紹介し、定住につなげる仕組みづくりがされ

ていると感じました。

そのほかの定住対策として、空き家を民間事業者がリフォームして月 3 万円以内で賃貸する、民間賃貸住宅建設（改修）支援事業や、町内に定住するための住宅を新築・改修するための、つわの住まいる応援事業補助金ほか多くの補助制度が設けられています。前述の、空き家を民間事業者がリフォームして低家賃で賃貸する事業は、本市でも参考にできると感じました。

最後に、一般財団法人つわの学びみらいの「高校魅力化事業に関する定住対策について」視察を行いました。

代表理事の「教育で持続可能な津和野町に貢献する。」との言葉や、「人口増を目指すのではなく、教育を通して還流すること。出る人もいれば、また、入る人もいることで維持できる。」との言葉に感銘を受けました。

2 日間にわたり、県内の事例に接し、本市にとって参考になる事例が、まだまだ、身近にたくさんあることを改めて認識したところです。

以上で、建設経済委員会 先進地視察報告を終わります。